

5月下旬の麦巡回調査結果の概要について

【対象病害】 さび病（赤さび、小さび、黄さび）、うどんこ病、赤かび病

【東北信】調査日 5月21日、22日、28日

1 小麦

（1）黄さび病及び赤かび病は、巡回調査地点での発生はみられなかった。

ただし、赤かび病は巡回調査ほ外のは場で5月28日に初確認された。

※「病害虫発生予察注意報 第1号（5月29日発出）」のとおり

（2）赤さび病は、長野市の巡回調査地点で発生はみられたが、発病度は平年と比べ低かった。

（3）うどんこ病は、長野市と千曲市の巡回調査地点で発生がみられたが、発病度は平年と比べ低かった。

2 大麦

巡回調査地点では、さび病、うどんこ病及び赤かび病の発生はみられなかった。

3 その他

長野市の小麦ほ場における巡回調査地点では、ホソハリカメムシとシラホシカメムシの越冬成虫がみられた（図1、図2）。



図1 ホソハリカメムシ（長野市）



図2 シラホシカメムシ（長野市）

【中南信】調査日 5月21日、22日、23日、26日

1 小麦

（1）黄さび病及び赤かび病は、巡回調査地点での発生はみられなかった。

（2）赤さび病は、上伊那地域のハナチカラで発生がみられ、巡回調査地点での発病度は平年並であった（図3）。

（3）うどんこ病は、巡回調査地点での発生はみられなかったが、調査ほ以外では生育旺盛なほ場で散見された。

2 大麦

（1）巡回調査地点では、さび病及び赤かび病の発生はみられなかった。

（2）うどんこ病は松本市の巡回調査地点で発生がみられたが、発病度は平年と比べて低かった。

なお、調査ほ場以外では、上伊那地域の野菜後作ほ場で、一部倒伏を伴ううどんこ病多発ほ場がみられた。

3 その他

調査期間中、松本市、伊那市、南箕輪村の大麦または小麦ほ場で、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ、ウズラカメムシ、ブチヒゲカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメの成虫がみられた（図4）。



図3 コムギ赤さび病 (伊那市)



図4 ウズラカメムシ (南箕輪村)